

新船「フェリーよなくに」が就航

「与那国島から石垣港航路に快適な船旅を提供する」と

沖縄総合事務局では地域の公共交通を確保・維持するため、沖縄県や関係自治体とともに離島航路の運営費等に対する支援を行っています。今般、その離島航路の一つである与那国島と石垣島の石垣港を結ぶ航路に、バリアフリーに対応した最新鋭の設備のフェリーが就航しました。

日本の最西端に位置する島・与那国島は、世界最大級の蛾・ヨナグニサンの生息地であることや、日本在来馬の与那国馬が放牧されていることで知られています。また、豊年祭等の伝統行事が数多く残る地域でもあり、地理的にも文化的にも特色あふれる島です。与那国島の方言名「どなん」は「渡難」すなわち「渡航が難しい島」に由来していると言われています。

与那国島へは、合資会社福山海運が運航するフェリーが与那国島～石垣港間を週2回往復運航しています。与那国島までの航路は波が荒いことで知られ、夏季には台風により、冬季には北からの強い風により欠航を余儀なくされることがあります。

欠航が続くと生活物資の不足により島民生活にも影響が出ることから、島民は年間を通じてフェリーの安定運航確保に悩まされてきました。

そのような与那国島と石垣港を結ぶ航路に、昭和63年

から25年以上の長きにわたって就航していました旧船「フェリーよなくに」(全長67・5m、総トン数498トン・旅客定員100名)に代わり、平成26年7月18日から新船「フェリーよなくに」が就航しました。

新船「フェリーよなくに」は全長76m、総トン数753トン、最大旅客定員120名と旧船より一回り大型化され、横揺れを軽減するフインスタビライザーの装備により波浪に強く安定性に優れることから、快適かつ安心・安全な航海が可能となっています。また、船内には多目的トイレなどのバリアフリー対応設備やエレベーターが設置されて、高齢者や車いす利用者にも配慮した構造となつており、広いエントランスホールなども特徴となっています。

その新船「フェリーよなくに」の就航式典が7月18日(金)に行われ、多くの島民の皆さんとが与那国島西部にある久部良港に駆けつけ、久部良小学校児童による鼓笛隊や地元の皆さんによる獅子舞などで賑やかに新船の就航を祝いました。

新船「フェリーよなくに」の就航によって与那国島への海上輸送がより一層充実し、利用者の利便性向上や安定的な物資運搬が図られるとともに、地域活性化の促進や与那国町の更なる観光振興など多くの経済効果が期待されています。



就航式典の様子